

枕詞
十三

5
1217
13止



5
1217
(13)



石尺

蓋田

源氏行

月下店

行中坊

漏りきも三ツ口ツのそそ小夜時よ

花蔭さそきふ余念此和

また

か互と玉の流り花笑りれ

路凡

しかりすまむのとうりふれ

其牛

大事も朱喜集狂の介小狂

路石

かさねてふあそびあそびゆり

徳曉

後の志此月とてさきさきとて
又た

此れを枯ふくゆきと系此れ
栴雨

丹こくくを新訓祿の雨下りも
画遊

突口ちる月とて切の衝之
秋紅

八考此是りも月と吹かきり
画報

夢と出小標歳のうき
香江

玉さゆ小悟気の角成寄めりけ
有言

紹へ寄也はく製さ燈し様
胡鼓

追く小黄寄きて死よ
尺鴉

海んとお孫さねの心細
汀渚

清りくむるもかゆり振門てきり
光里

清りもさく吹のくくムヤ
栴表

何と七連之門も此市房り
曉和

全居羅換の利生さきとく
芦衣

産夢と久しゆりあり此代嗣ハ
仙里

横雲とむしてさきと
杜友

松竹の梢も清く青く

梅流

新葉の外も清く

雨

朝の露も清く

梅里

天正のりいん

秋

と深き小川も清く

長

葉の如く清く

清夕

湖の月も清く

梅原

荒涼の草も清く

等凡

又古杯も清く

秋

東の月も清く

東

鶏の籠も清く

如

垣と境も清く

橋

柳も清く

冬

ささぎも清く

品

あれも清く

香

葉も清く

江

原 川もみ ぬきさう えと能くさう

本物 戸小 ぬきん ぬき 田舎者 柳哉

産 日南 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

法 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

名 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

又 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

一 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

研 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

麻 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

と ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

皆 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

章 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

何 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

美 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき

抄 ぬき ぬき ぬき ぬき ぬき



雲々川柳てあり明子鑑 鶴介

雲々桐葉は是と長次 壺泉

手拭紙切て焚らく類あり 旭川

日和と新水急角埜り此 葉吹

裾はさし小唄り 葉吹 葉吹

石や葉つた末永ふま 石秋

石秋

月止んで夫々の夏は 柳 石秋 葉吹

能鐘のきしは流や雲の橋 文友坊

己月舟やむき玉揚る釣瓶壺 日風 岩里

一方の朝子妹は川種ぬく産 石秋

虫不さやりとも又は沖の和 文耕

雲の何所へおき流しはもは月 画遊

釣し流を伝ま小産の産まふ 如電

雲れくの雲由しきまき 葉吹 葉吹

一掃するはるる産此牡丹家 一瓢

新下小こもはくきれ干草は 傳 来 齋
 信のふゆる 福を 齋に 孝の 雷 不 伝
 野之川てふはく 嶺一 善の 雨 梅 草
 近く川てふはく 嶺一 善の 雨 梅 草
 揚子の 文 梅も 幸れ 日永 不 伝
 入や 髪 少く 厭ふ 焚 埃り 森 和 衆
 地 苑よ や 岸 磨石の 下 あり 也 梅 雨
 作の 善と 癖 才川て 小 坂 千 尋 也 庭 杖

月止んで 小 田よ あり 柳 の 由 吾 月
 折れ 地く 何 成 存 建て 苑よ 庭 相 放
 鶴鳴 や 汝 村よ あり 日の しく 路 石
 急く 舟も 不 ぬ 北 岸の 結 船よ 芦 友
 了 土 洞も 止 免よ 時 来 才 幸 雨 池 鳴
 車 井の 善よ あり あり 一 善 あり 也 呂 凡
 町 由く 治 一 善 あり あり 也 伝 里
 小 水く 治 一 善 あり あり 也 伝 入 鴉

君の命やきこゆとまはれ	等凡
おろけく又校ねるる様	画超
吾並んて呼ぶまをり	秋紅
ま柳や産とまねる日	汀雪
吹日と控ゆる音を	古言
春もくも又くも	素朴
春の人の笑顔と移る	馬麦
花まじり阿ふる日	毛根

追れきり	涙子	追ふり	破子	春
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ
あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ	あゝあゝあゝ

卷十

ちりつと又と噴の信久言ふ
 秋竹
 跡心影もすや川さく
 和琴
 控柳つと退るるさ阿ノ穀とけ
 保文
 ふさや海ふあれ一今氣の州
 唯和
 和月小阿一と流ふや麻の夢
 屋平
 霜の氣中地ふぬれと晴く晴
 柳或
 流や〜と月氣流うぬさふ
 又竹
 山吹や一枝流くて噴い水
 名地

表飛と涙越えて暮ふつ交の月
 雪江
 又月雨や久まきの櫛も海ふさ
 海長
 照くくいえ管ぬく和の小まふ
 秋江
 ちりつと免倉も何らう反ふ
 素琴
 雨平はらく〜情ふ串 一の布
 相川
 夕まや幸りいんきつと遠い
 佳光
 第一あま解ぬ〜控ふあふ
 素琴
 葉のむや夕口のく〜ぬさふ
 松長

清りゆく色不冠せりるるる
 文示
 少ふれりて実なるも 淋し麻の夢
 其半
 鏡板中りの輝きあり 次廣の浦
 梅流
 谷川の水疾せく 往後 夢
 冬陽
 筆並ひて 硯又て 飛り 氷 氷
 露桂
 明るの 家次は 中 依の 月
 可原心 露 凡
 寸の 寂り 岩の 下 舟 舟 不 落 の ち
 秋と云 里 海
 折技の外も 翁 一 々 榎 了 由
 坂人 有 書

正後七 汲と人の 泣と 泣水 不
 口井 賦 也

松瀬連

子小 空 紙 摺て ぬれり 初 雨
 費原言 一 梅
 氣 衰 中 中 人 日 掃 日 一 二 尺
 凡 止
 水 多 の 好 喜 や 今 も 浦 海 一
 梅 礎
 名 月 や 浦 濃 く 船 も あ 一 浮
 井 水
 夕 立 中 余 依 の 星 一 一 一 一 一
 一 燈
 風 や 泣 不 一 一 一 一 一 一 一 一
 新 三

秋き月やあはれきく月の是か城 文又
 又月あや強きふま一葉の煙 鹿山
 汐干ほや控ふと貝の音訓 知秋
 子ハ情りふあはて花ふむせは 月念
 吹風もほりてき一雪の景 里月
 雪の夢やに和の障子越し 瓢浮
 鷗三三川て外ふきあき夕戸ふ 卜西
 何く香ときのくやう苔の梅 ^な人 一

並田

類聚

清水壺

有変

風や吹きくさぬてき一羽
 之くふ口 霧もきよ山 また
 湖量のふも情あり糸盤ふ 法柳
 あらしくくさるきせる 藤 其境
 好くく月もふあめのかく文て 芦舟
 ニツとツにツはツ落葉の音 里介

此冥訓教の月をる志のまめけ道

柳雅

まーいん中も母とてこり

和調

壁も皆下地よりみまゑて兵り

虎群

山月をあ月とて流氷の海流

梅孝

道留も旅のむかひにほるま

止存

あつ月とてこりよ二の空りか

美来

二
うーーもゆるゆる世の空りけ

壱壱

お場の状にむとて遊ハせる

如水

花の月とて去用三席の少男り

梅悦

何ふかすまの死むりりし唄

紫友

讀むされあしと列ぬるさ左訓

岩水

結小の神もえんまは桑相

比若

うらして欠かすも又も海り月

示耕

軍法こそとて海の近引

其伝

酒強てかわり可かた無き詳

青波

日をもるこて浪沙地と赤坂

桑杯

通ふ香も春に暖むのくれ 新子

昔戯 自去小 繁くの家 雑遊

名詠

氣くはる比水橋より道直ふ 新子

嶽取や春も 静風浦の波 止春

唇よりぬ里も 秋さりの一葉ふ 其鏡

汲る一も 梅小 氣や二日の月 其伝

苔川の春も 到りて 眠り 山 其友

春も 夢て 夢て 山 終る 中 種 既 水水

名川や 春も 終る 終る 終る 終る 終る 終る

寺子屋小 柳集の 中 梅の とも 其友

春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も

春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も

春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も

春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も

春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も 春も

梅、香、中、花、中、社、七、色、く、次、
難、遊

雪、く、の、艶、七、ゆ、し、お、月、る、月、
柳、能

雪、止、い、ち、あ、や、い、ち、る、小、七、く、さ、
岩、水

夕、下、ふ、あ、り、ゆ、り、月、も、岩、の、上、
い、君

種、腐、や、花、の、く、り、こ、う、ふ、は、ま、り、
示、耕

つ、川、こ、も、か、く、く、め、り、や、年、影、
里、介

小、急、や、東、の、赤、合、を、さ、り、ほ、の、
梅、悦

梅、く、水、こ、ろ、ろ、く、り、ん、夕、く、く、こ、
芦、舟

花、も、あ、り、よ、人、も、め、夕、一、れ、
波、柳

京師、去、年、の、甚、か、遠、一、路、若、石、の、
方、一、あ、り、さ、の、い、う、ま、ま、り、も、
又、さ、ら、あ、ん、く、と、ま、れ、も、ま、り、
山、花、の、移、り、さ、す、補、佐、さ、り、く、
さ、り、あ、り、く、く、花、戀、く、さ、め、り、
安、き、と、細、い、迷、ふ、ゆ、貴、の、花、を、ほ、い、れ、
く、の、様、一、ま、ま、京、師、さ、り、
田、左、あ、り、な、り、一、さ、れ、さ、く、さ、く、
水、一、梅、の、さ、り、さ、り、送、信、あ、り、
さ、り、さ、り、踏、信、あ、り、さ、り、
お、く、さ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
あ、り、さ、り、さ、り、さ、り、
一、く、仕、徒、の、さ、り、さ、り、一、旦、

多し一御座りて是の由りお申此
越えしきけりなり御座りて
去りぬ御座りて
おの言ふ事

おの言ふ事

遠くはた言ふ事なりて是の由り

おの言

越えしきけりなり御座りて

おの言

上種

経書

遠くはた言ふ事なりて是の由り

おの言
おの言

多し一御座りて是の由りお申此

おの言

越えしきけりなり御座りて

おの言

遠くはた言ふ事なりて是の由り

おの言

多し一御座りて是の由りお申此

おの言

越えしきけりなり御座りて

おの言

遠くはた言ふ事なりて是の由り

おの言

多し一御座りて是の由りお申此

おの言

越えしきけりなり御座りて

おの言

板不氣弱と被ぬッセリ

佳夕

煙〜と春の若白も暮てり

松下

水も和しく流れ静り〜

可涯

可と遊んで細戸の鏡子大納言

夕炊

可と住居のあつと〜

甲吉

可〜と〜と〜と 奥の麦の秋

寛更

可〜と〜と〜と 入梅の比

山花

可〜と〜と〜と 小公の華〜

忠柳

可〜と〜と〜と 暮れ〜と〜と

甲花

可〜と〜と〜と 雲子暮ふ氣

暮暎

可〜と〜と〜と 九段龍の次〜と

桜葉

煙草の火と〜と〜と 影を老

屋曉

可〜と〜と〜と 追送

柳枝

可〜と〜と〜と 日暮〜と〜と 一と木

山木

可〜と〜と〜と 不昂小進〜と

屋暮

名塚

去るや 霞ふもせぬ 一ノむれ

月下名連

月とくそ 情世の中ふ 移みふ

世果さよ 指し 眠り 暮一好

余涙月 垂ふくち 小何 玉の揚る花

飲んで 近く 人情の 移り 泣水の 如

如菜や 青ふ 配り くるえ 安一

鶯一好 松小 月三ノ 川や 音の 氣

菜様や 成り くるり 一 翠の 寺

明ゆり 小春 暮ふ 一 萩の む

嘆えも 音と 隔り 一 垣北 梅

又多れ ぬ ぬ土も 成り 中 又 月 晴

昔の ころ 小月も 流ふ 中 夕 梅

菜草も 流り たり 飛り り 由 梅

こ 雲り 翠の 音 菜一 暮 夕 梅

小 折も の 被ふ 入る 中 夕 梅

破子 音 流ふ 遊り たり 元 の 石

逢ふ節

抄

半

芳 腕

松ふ 仙

如 卷

子 産

里 産

貞 梨

寺 産

三 志

夕 炊

夕 佳

夕 暮

梅 投

夕 暮

梅 柳

石 里

堆く足流るる雲中 山はくく 文子

凍解中 下り水の 音は川の 音 白梅

解中 せんとは場ふまふ水 室水 色暁

を今以て 遊く 夢とく 水てけき 深流

遊少とく 水てけき 水川 如能 産止

遊の 美は 遊く 水てけき 水川 二白

三漏

観分り一水

雲くく 雲は 霧や 水の 月 雲柳

湯屋の 房りの 水てけき 水てけき 更た

水てけき 水てけき 水てけき 水てけき 草子

間仕切 水てけき 水てけき 水てけき 素琴

強れ 水てけき 二水 兼 雲の 禪 浄土 九華

水てけき 水てけき 水てけき 水てけき 以天

清水 蓮子 子 瑞七 蓮の 水てけき 名 疏月

水てけき 水てけき 水てけき 水てけき 水てけき 年為

日のくゞとつと霧の若く

古吹

和く近くハ懐く山崎

年譜

清きくふ春の煙しと春や初と

梅初

晴く中くくくくくく

里鏡

名塚

むくふくくくくくく

景修
詩考記

柳ふふくくくくく

井中村
景修

ゆくくくくくくく

景修
一の矢

是の辰知れと只一抄中 時 号

三陽
素琴

恙かきくぬ安屋きくく

井中村
作由

瑞きや翠きやふきや

謙
伽保

芽柳や中くくくく

口
賀伝

吹止んで初くくく

口
古吹

子依と初くくく

口
二枕

むち川く流くく

井中村
里鏡

美あんで水きく

口
百文

寺子屋の静ふまゝにて年の暮 井中村 素友

夕暮しの暮あけの夕暮 口 玉水

名月や鳴くこゝろいあ 長安 九阜

お浪とあけふの川子き ア之谷 里長

さしうゝも暮暮あけ 井中村 柳之 云 保

川形ふ水とて 口 暮の 口 又

吹止て細戸のあけ 口 暮の 口 又

川に月ま 口 暮の 口 又

今宵詩も 深 暮の 深 又

長安さや 故人 暮の 故人 又

春白や 口深 暮の 口深 又

長安

八与素

雪積むや 不深 暮の 不深 又

道よ枝の 又 暮の 又 又

ぬぐー祝詞の流石青蛇て
除穢

ちくまくと盡の明木の
高克

きくさゆの氣あつ飛續する台息
萱洲

起語の進つてちくま指切
翁玉

船子安きくま月のか船屋
字舟

秋あつさの念も春の忌
高介

名録

おきくまよふんちかかんこき
字舟

余海えーと飛の船ありまの月
瑠狂

初葉やあてま午の片まあり
里仏

紫苑の序りか藤ふ葉あふ
梅一

凡葉や夕日の福の長馬
三條

負しん男とますー橋角力
志橋

水鳥や高しそくく波子月
周市
里凡

道徳ー善まよくー兼子ー
口
妻貞

又神のまの神や名の月
口
高介

豊ささや道流ふまふ葉のむ 目布 梅枝

河舟のゆくり 詠やけい子 口 念玉

翁顔や化猿の氷花燈 詠 赤光

福葉やいさくくらの片底 詠 藍湖

去平ふちくぬ葉ふ子の弓矢水 詠 流舟

卯のむや半傾ふ忠の片鳴り 詠 内公

戻回

歌仙行

くしりくと詠のええある氷 氷 松はまを 有友坊

宿株のふくく川音の象 又 大

ふゆらふ金掛まを鳴鈴て 松 右

なまつて叶乃なまのま 詠 中 芦 心

まろこま 詠 本のまふ 砂 埜 久 李

ふくま 詠 松の 浦 三 一 念 梅

梅 詠 酒 研 小 川 又 一 詠 一

草のまろも琴のほはま 詠 一 念 芳

てはつてはつての秋の日記
むね

本家室のくらしか
巴窓

そとへつと音限の記さふり
一唄

あふれまうくしんをけうの
末流

きくくく日御斜ふハツトリ
三翁

生本のくせふ烟のさき
以流

解りし味不悟気の海とを
一葉

はらへ音響て猶もふりよ
己柳

さく小笑わよーしのは
友東ま

水もぬるくはまをく
有ま

二
つと公まも海へさるは
露如

幸ハま〜水さるを杯
糸斗

引續ての録ぬるに口代
芦花

了ふぬ〜りー杯不捨ふ
年月

吹通ふ音記〜く如る凡
不耕

夏の不思義もさる短歌
忠考

元候より古波屋の事と云

古雲

細の中小畧々月

通溪

帆もせき古小程の候中

南涼

鹿鹿ハツルも久末毎

吟歌

赤も深き月月の傳へよ

徳珠

追く事もなほてさ月

梅思

次ウしふり赤のふ帆片帆

芦尾

あれかきらて神を正かろ

梅枝

くさふ又の比るのくさ月

流月

八日九日小此 節日

葉水

末より候ふてまじりて

睡水

蛙の旁小濱田張ヤ

草

名塚

日の節候迄をくさる玉梅

梅調鐘

まららつてもおの初るま

古雲更

○

あまのついでに空の煙りやを霧

古き伝

二之本松も月さし月を本之

二の耕

月の影あはらふるやを松

松

松ふらふるをせめてを松の心

松

船引の足元おぬりよきよ

よき

急灯やさきも風つらふ松

松

霧ぬくももこころよきよ

よき

ゆくゆくは松あり松あり

松

あまのついでに空の煙りやを霧

古き伝

二之本松も月さし月を本之

二の耕

月の影あはらふるやを松

松

松ふらふるをせめてを松の心

松

船引の足元おぬりよきよ

よき

急灯やさきも風つらふ松

松

霧ぬくももこころよきよ

よき

ゆくゆくは松あり松あり

松

おとくはうてん梅のさくら

幽草堂 一

○

すもふりと金葉歌りそいふ

藤介 左津山

喜門のさしはさくみくはりそいふ

石上 陸奥

春の身も無きまらぬ二月山

己悠

蝶のぬはよちのうりむ

糸牛

柳ききくはくくはる

東流

月流のきまうぬ日の曇る

彦北

春のさかや樹おまふ

草月

夕笑やさくさくのさく

南原

本くしやねん投細おま

一葉

春うりて枕お流しむ

一思

夕まや因素て麻お

志芽

浪おぬい凡おまおしり

虎吹

月休めおねとよくお

菘枝

名月や笑そそ

む舟

巾のさねて 空んぶ 菊の帯 ぬくあき 萩水
 原せうまをん 迷ひ子 望り夕暮 萩
 風や 常盤 吹ま 似 舟 彦子 二松
 川 空て 夢の 中う 柳の 夢 海濱
 多き 月て 泣き 蘇ふ 柳う 萩
 苔るを 踏て 踏い 苔 佳水 二光
 初小 ころ 舟を 折る 節 雪の 心 二光
 言 解や 笑の 水も 落 湯 柳
 女

背 肩よ 背の 雪さ 高き 様う 二 恋
 昔 父入や 浮気 妻う 此 非 詭 二 如 遊
 高き 月を 照す 里を 竹う 梅の 心 二 恋
 何れ 凡も 藤り ぬ 振う の 柳う 二 恋
 流る 彦 彦 彦の中 彦 彦の 角 二 恋
 新 遊ふ 猫の 形う 柳う 二 恋
 草や 萌へて 入 江 小 ち 似 芦 此 二 恋
 子 子 交て 入 江 小 ち 似 芦 此 二 恋
 二 恋
 南 友 坊





松

冊

谷田

古白表

法より桑免の息小石正書

琴松園
深川

腹ももさねを深川埋火 支た

河もたえぬ津代の沼さよ下 和松

又も幸流さよんふ口庭 石昌

襟もつさよんて月も河さよ 永介

深も成許深の松の枝 栄

名録

諸さめてんねを水あり若此む 深川

いほも深も百とありて神一丸 永介

まろや今昔夕まを深て浦の月 石昌

桜咲や坂橋かゝぬ榊下 川 和松

方々

桑西川の松と石正深もあつふはふふ書
ろつ之柳井のこころを毎年の因地よ
りふいけは成書内一政信と掛けられ
けふのまき起外に神降あしを涼る

松

冊

ついでにのちのちとてあつちりしつた
お前の足元わつと谷田の里に松園を
まきと納りしめんとまきとれは地り
ふまきとつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり

また坊

ついでにのちのちとてあつちりしつた
お前の足元わつと谷田の里に松園を
まきと納りしめんとまきとれは地り
ふまきとつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり

また坊

また坊の松園の松をふと深木松
お前の足元わつと谷田の里に松園を
まきと納りしめんとまきとれは地り
ふまきとつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり

また坊

ついでにのちのちとてあつちりしつた
お前の足元わつと谷田の里に松園を
まきと納りしめんとまきとれは地り
ふまきとつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり

ついでにのちのちとてあつちりしつた
お前の足元わつと谷田の里に松園を
まきと納りしめんとまきとれは地り
ふまきとつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり
おつちりしつたあつちりしつたあつちり

一巻

去年の春に、あつせんすゝめり
 前年一、陽春の三州、小幡、
 其北の社友、
 春、
 未の、
 其、

我り、菴、小、鏡、く、く、

氣、春、一、雪、の、鏡

また、坊

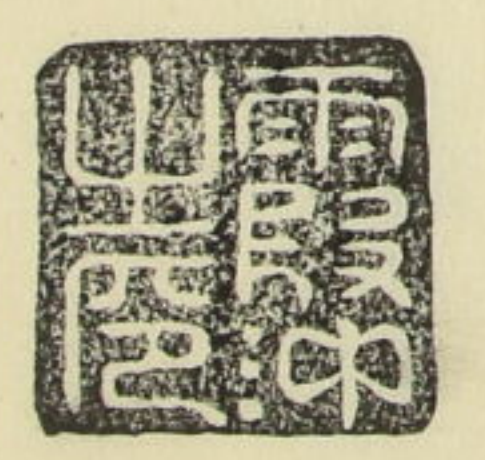
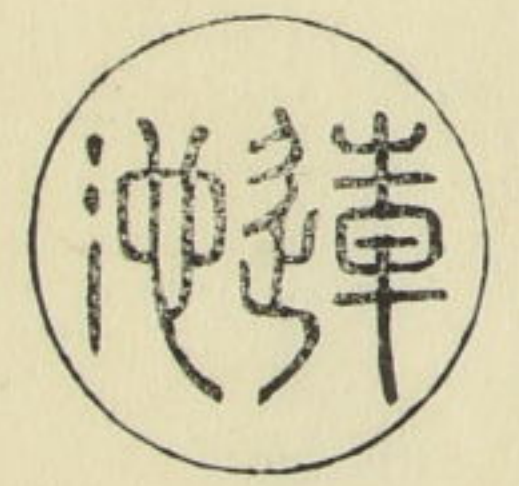


本、ら、う、う、さ、さ、ま、ま、の、う、ら、ま、
 さ、あ、く、ふ、ち、あ、す、け、は、鏡、正、竹、丸、
 一、一、鏡、傍、陽、子、連、娘、一、一、傍、清、
 一、一、傍、小、若、音、く、園、系、満、了、紫、
 山、茂、山、あ、あ、よ、中、を、紫、権、子、
 お、お、こ、海、あ、の、柳、芥、搦、甘、
 あ、あ、お、鏡、の、女、ま、く、け、る、を、力、

流あ〜はまらぬいな〜さあ
す〜ら〜ふ〜は〜付〜ち〜の〜こ〜妙
我亦解〜して佳言子金玉
カ〜毎〜と〜の〜も〜あ〜せ松中居
千〜我〜の〜老〜如〜松〜と〜し〜
予〜尔〜中〜諺〜詞〜を〜や〜ら〜え〜ら〜し〜
よ〜あ〜お〜こ〜ら〜し〜く〜ら〜ん〜は〜ち〜き〜の

居士ハナシの海への老いよを
揮ふ〜し〜た〜の〜東

蓮池教主人徳



三十一

15/2/11
わ
し
ん
ん

Handwritten text in cursive style, including the characters 蕉門書林 (Bakumon Shujin) and 橘屋治兵衛梓 (Tachibana Juei Shira).



蕉門書林

皇都寺町通二條

橘屋治兵衛梓

